



講演 日本の社会保障の壁を打ち破ろう

ご関心のある方は、どなたでもお気軽にご参加ください

講師の唐鎌（からかま）直義さん（元立命館大学教授）に、今回の講演の概要についてお聞きしました：

低レベルかつ世代間の分断

日本の社会保障のレベルは低いです。とりわけ現役世代の社会保障が非常に劣悪です。そのために高齢者が優遇されているかのように見えてしまい、水準切り下げに対する抗議が出にくくなっています。世代間の分断がされています。

日本と同じ経済力のフランスに比べると、社会保障に雲泥の差があります。ということは、日本の社会保障はまだ伸びしろが十分にあるといえます。

正規と非正規の分断

それから、労働者内に中間層である正規労働者と下層の非正規労働者の分断が形成され、社会保障に関する利害が一致し難しくなっています。身分的分断といえます。これが下層労働者の極右への接近を促しています。それは、アメリカのトランプ現象、イギリスのブレグジット、日本における参政党の台頭などに表れています。そのため、左派のエリート化が進行しています。

財源について

社会保障の財源については、加入者本人の拠出が非常に高く、企業の拠出が非常に低いです。そのため、企業負担の上げが必要です。社会保障の財源を消費税に求めるべきではありません。

今回の講演では、このような内容を官庁統計を使って証明し、海外の知見を紹介したいと思います。

参加者の方々も、社会保障の引上げはもう無理と思っている方が多いと思います。それを打ち破りたいのです。その思いをタイトルに込めました。

とき 5月17日（日）13：30～15：30

ところ 島根県民会館303会議室

主催：島根革新懇



主な著書：

『脱貧困の社会保障』（旬報社）

『日本の高齢者は本当にゆたかか』（萌文社）

『ここまで進んだ！格差と貧困』

（共著 新日本出版社）

『社会保障再生への改革提言』

（共著 新日本出版社）

『現役世代の社会保障』（編著 学習の友社）

